

令和5年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科：（ 地理歴史 ） 科目：（ 日本史B ） 対象：（ 第3学年1組～5組 ）

科目担当者：（ 1組～5組：大久保 壮拳 ㊟ ）

教科・科目の指導目標	学カスタンダードにもとづき、日本史に関して史資料を活用しながら多角的・多面的に理解を深めさせ、基礎的・基本的な知識の習得をはかる。さらに、社会を構成する一人の人間としての生き方やあり方について、社会と自分との関わりの中から、生徒が自分自身で主体的・対話的に深い学びの実現をしようとする姿勢を身につけ、学びへの探究心を醸成させる。
------------	--

	前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	本校は外国籍生徒の占める割合が多く、分割前期募集社会科得点結果はそれほど芳しくない。ルビ付き問題選択者数は日本語読解力の低さを示している。また学習に対する興味・関心が低い生徒が多い。そして、一般的な社会科嫌い・漢字表記嫌い、中学校社会科基礎知識不足に加えて、こうした本校独自の状況も考慮していく必要がある。一方で、本校での学習活動を通して、徐々に社会科目への苦手意識が低下し、意欲的に学ぼうとしている生徒も増えつつあるため、意欲的に学ぶ意識をより増やしていく必要がある。	基礎的・基本的な内容を中心に、歴史用語等を可能な限り平易な表現に置き換え、生徒全体の認識・理解を促す。複数の史資料を活用し、深い学びにつなげる。外国籍生徒に応じて扱うエピソード内容を精選するなど、外国籍も含む生徒に対して、様々な角度から説明し歴史に対する関心を喚起する。歴史の源流を把握させるため、原始古代から丁寧に説明し、前年度の世界史との関連を図りながら理解を促す。ICT機器を用いて、視覚的に学ぶことで関心意欲を喚起する。また周りの生徒と教え合うことで、主体的で対話的な活動を進め、学力の向上を図る。その際、教員が介入しすぎないよう注意する。	科目の内容上、歴史に関する膨大な情報を扱うことになるため、プリントを配布している。内容のまとめりに小テストを行う。更に、大学入試に対応できる概要の学習を希望する生徒には、個別に補習指導を行うなどで対応する。ルビ付きの補習用プリントを利用しながら随時個別的な指導を行う。基礎的な内容を踏まえて、発展的な問題も解けるように、こまめな振り返りを促す。主体的で対話的で深い学びの確立のため、また、学習意欲が高い生徒には、個別の課題を取り組ませて生徒全体で共有し、協働的な学びの環境を整備していく。史資料を活用して話し合い学習を進める。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			